

インフラメンテナンス 国民会議

近畿本部フォーラム 2019

実施結果報告書

【主催】インフラメンテナンス国民会議

ご挨拶

TAMIO SHIMOGAMI

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部
実行委員長

霜上 民生



2019年5月30日、31日に行われた「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム2019」は盛況のうちに幕を閉じることができました。これもひとえにご支援・ご協力をいただいた国土交通省をはじめとする関係機関、各企業・諸団体、ご来場者の皆さまのおかげです。誠にありがとうございます。

「近畿本部フォーラム」は今年で2回目の開催となりますが、当フォーラムを通して、次世代へ健全な状態でインフラを継承し活力ある健やかな社会を維持するためには、社会全体がインフラメンテナンスに対し、より関心を持ち、お互いに協力し合い、インフラメンテナンスに取り組んでいくことが必要であると、改めて痛感いたしました。

今後の「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部」の活動ですが、当フォーラムを一つのステップといたしまして、近畿地方を中心に様々な地域に存在するインフラ問題に取り組み、インフラメンテナンス産業の活性化を図るとともに、地域団体・企業、地元の方々に更なる理念の普及を行い、その集大成として2020年には「第3回 近畿本部フォーラム」を開催したいと思っております。

これからも、皆さまにはインフラメンテナンスへのご理解、また「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部」に対するご指導とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

NOBUYUKI KATAOKA

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部
フォーラムリーダー

片岡 信之



「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム2019」は、近畿地方を軸として、インフラメンテナンスに関する新たな技術の発掘・紹介を行い、実際に見て、触れて、感じていただくことで、直接インフラメンテナンスに携わる業種の方だけでなく、幅広い層へのインフラメンテナンスに関する理念の普及を図ることを目的に開催いたしました。

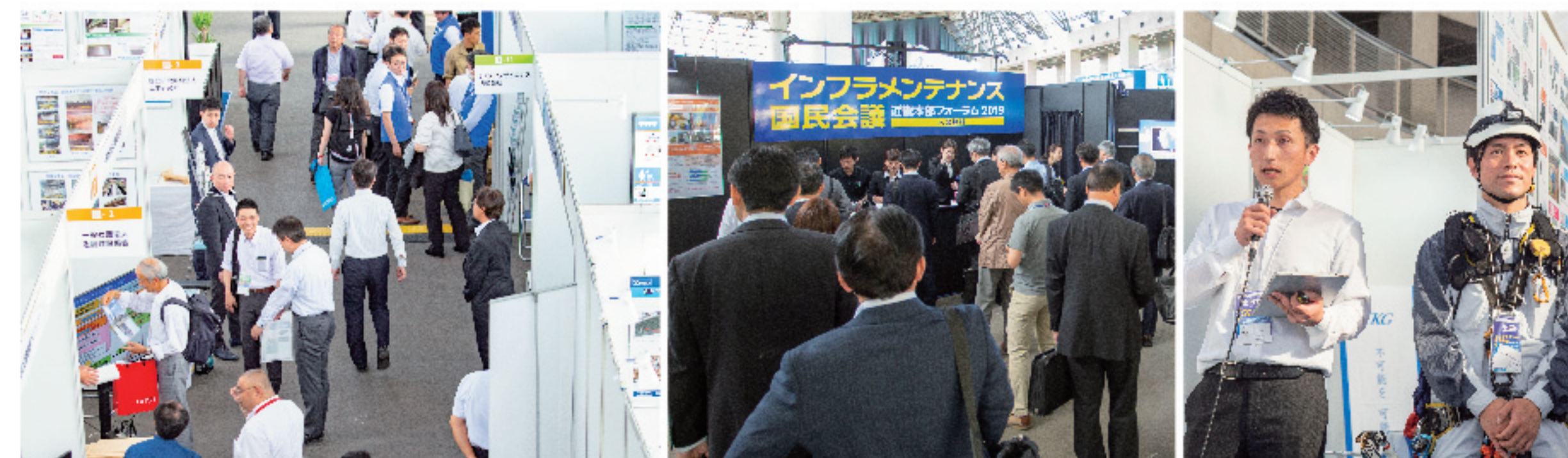
たくさんの方にお越しいただき、講演を真剣に聴講する来場者の方々や企業・団体の出展ブースにおいては企業間の垣根を越えて交流を行う光景が見られ、「産官学民が一体となってインフラメンテナンスに取り組む」という私たち「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部」が掲げている目標の一つが達成できたのではないかと思います、大変喜ばしく思います。

しかしながら世間一般にはインフラメンテナンスの理念が根付いたとは言い難く、今後も引き続き理念普及を行う必要があり、また数多くの解決しなければならない課題もあります。当フォーラムを契機として、インフラメンテナンスが社会全体に根付くよう、そして活力ある社会づくりを目指してこれからも活動を続けてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、関係機関、各企業・諸団体の皆さまには、ご支援とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。今後もインフラメンテナンスの理念普及に尽力してまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

目次

開催概要	p.4
出展分野	p.4
来場分析	p.5
開会式	p.6
講演	p.8
近畿管内道路メンテナンス合同会議	p.10
実証実験報告会	p.11
出展社一覧	p.12
出展社プレゼン	p.14
来場者アンケート	p.16
出展社アンケート	p.20
来年度に向けての改善点	p.23
制作物一覧	p.24
広報活動	p.26



屋内出展社ブースは62ブース、66社（※共同出展社9社含む）、屋外出展社ブースは14ブース、15社（※共同出展社5社含む）の出展があり、前回のフォーラム以上に盛り上がりを見せた。
屋内出展社ブースでは、インフラメンテナンスに関する革新的技術の展示・紹介が行われ、立ち止まって興味深そうに話を聞く来場者も多くいた。



屋外出展社ブースでは、建機・先進技術の実物展示・デモンストレーションが行われ、普段間近で目にする機会がない点検車両や技術に歓声が上がった。



開催概要

■イベント名 **インフラメンテナンス国民会議
近畿本部フォーラム 2019**

■開催日時 2019年5月30日(木) 10:00～16:30 (意見交換会16:30～)
5月31日(金) 9:30～17:00

■開催場所 花博記念公園鶴見緑地
ハナミズキホール・花博記念ホール

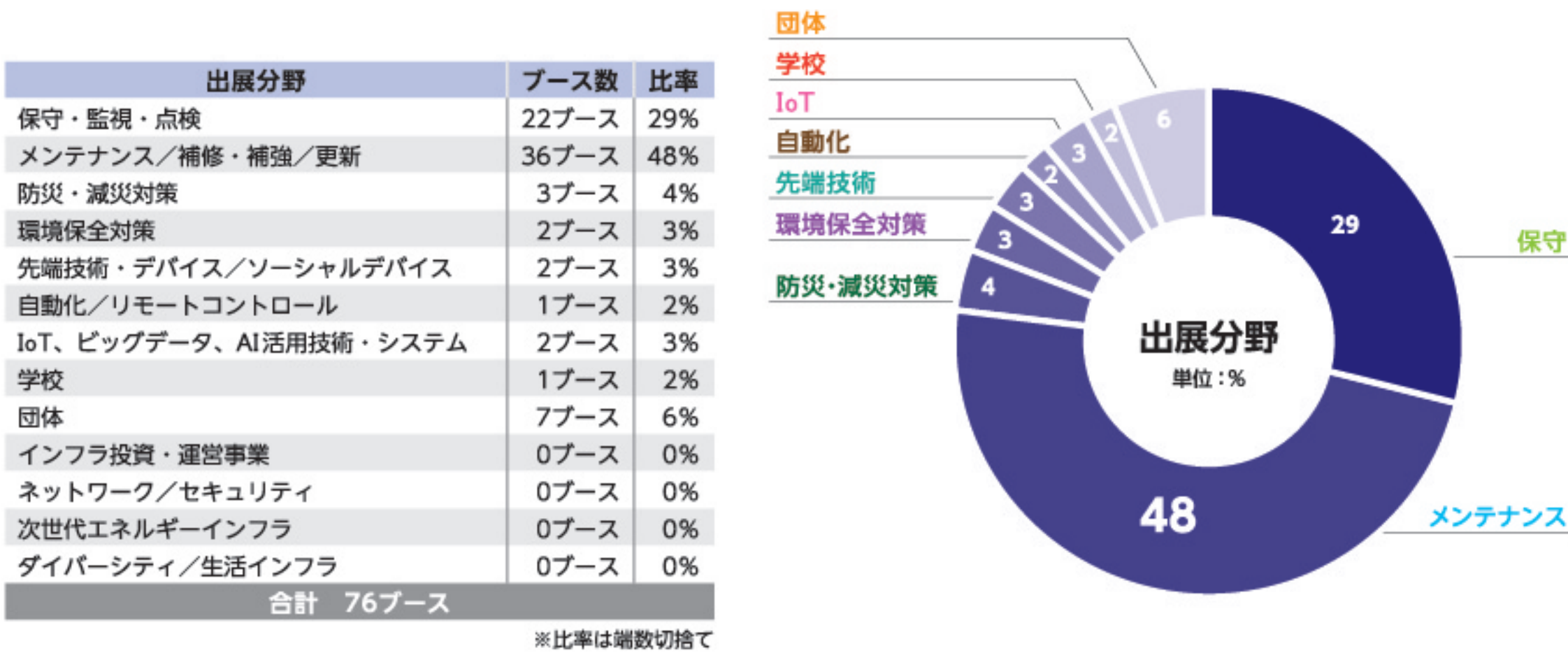
■来場目標 5,000名

■開催内容

〈屋内〉 ■カンファレンス(セミナー形式)
■62ブース、66社(※共同出展社9社含む)による展示・PR

〈屋外〉 ■14ブース、15社(※共同出展社5社含む)による
重機の展示及びそれを用いたコンテンツ
■ ケータリングカーによる飲食スペース
※30日意見交換会

出展分野



今回の開催より、出展ブースのジャンルのカテゴリ化を行った。出展分野はインフラを維持・補強するための技術を取り扱う「メンテナンス／補修・補強／更新」分野と、計測・点検技術を取り扱う「保守・監視・点検」が8割近くを占め、来場者からの関心も高く、広い層からの需要の高さがうかがえる。

その一方で、将来ニーズが高まっていくと予想される「先端技術・デバイス／ソーシャルデバイス」「自動化／リモートコントロール」「IoT、ビッグデータ、AI活用技術・システム」などのネットワークを用いたインフラメンテナンス技術に関する出展が少なく、今後出展社数を増やしていくことが課題となる。

また、今回は「インフラ投資・運営事業」「ネットワーク／セキュリティ」「次世代エネルギーインフラ」「ダイバーシティ／生活インフラ」分野への出展が無かった。これらの技術を所有する企業に当フォーラムを認知していただき、出展することへのメリットを感じていただく必要があると考えられる。出展分野の幅を広げることは潜在顧客を呼び込む契機になると考えられるので、今回出展が少なかった分野に関してもPRに力を入れ、新たな出展社様に参入していただけるよう、改善策を講じていきたい。

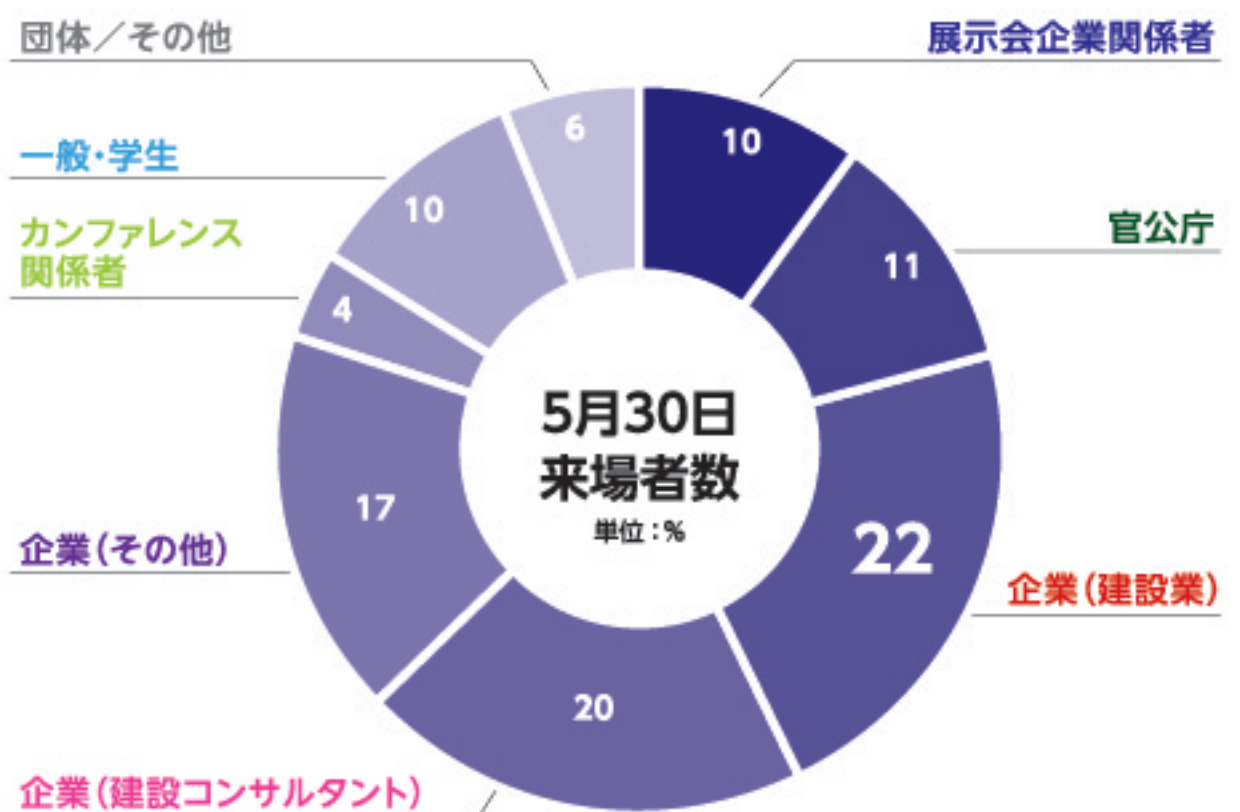
来場分析

1 日別の来場者数

5月30日(1日目)

来場者属性	来場者数	比率
展示会企業関係者	395人	10%
官公庁	436人	11%
企業（建設業）	831人	22%
企業（建設コンサルタント）	762人	20%
企業（その他）	670人	17%
カンファレンス関係者	172人	4%
一般・学生	374人	10%
団体／その他	232人	6%
合計	3,872人	

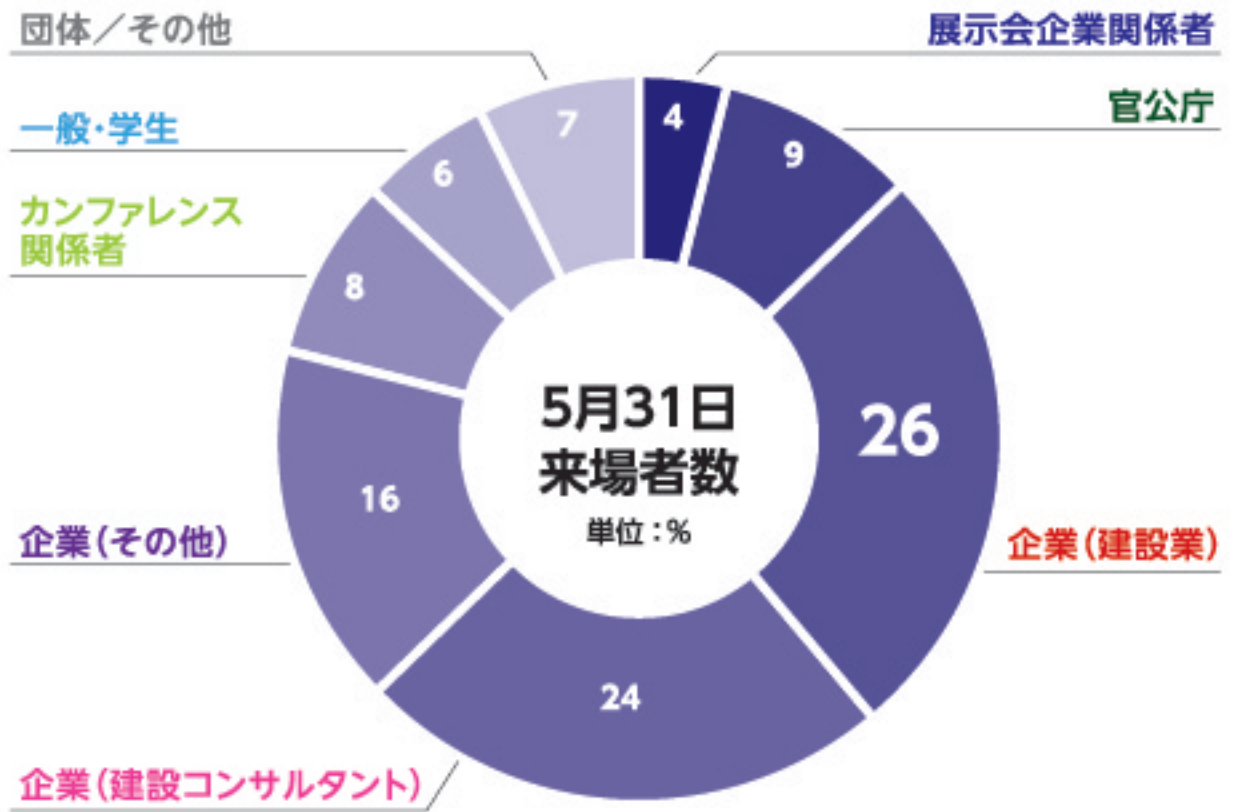
※比率は端数切捨て



5月31日(2日目)

来場者属性	来場者数	比率
展示会企業関係者	53人	4%
官公庁	127人	9%
企業（建設業）	384人	26%
企業（建設コンサルタント）	361人	24%
企業（その他）	239人	16%
カンファレンス関係者	121人	8%
一般・学生	96人	6%
団体／その他	109人	7%
合計	1,490人	

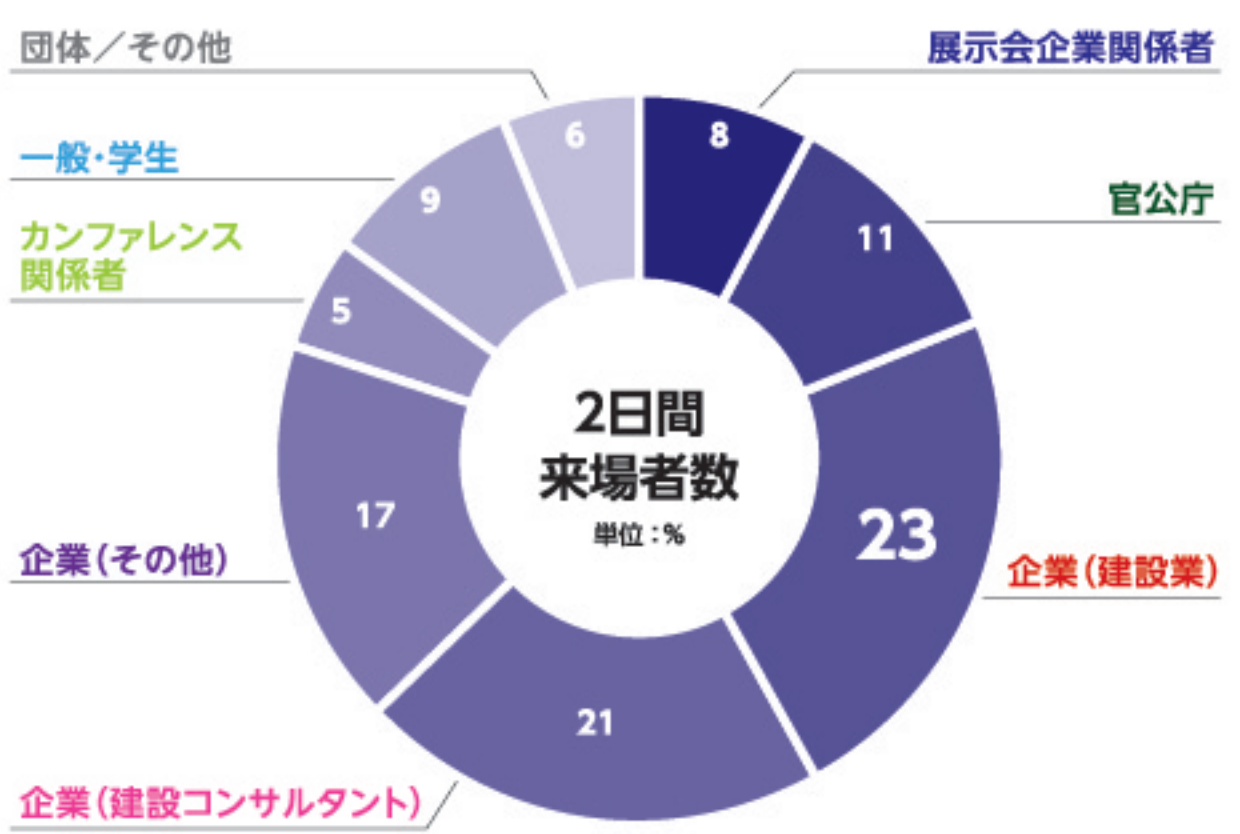
※比率は端数切捨て



2 2日間の来場者数

来場者属性	来場者数	比率
展示会企業関係者	448人	8%
官公庁	563人	11%
企業（建設業）	1,215人	23%
企業（建設コンサルタント）	1,123人	21%
企業（その他）	909人	17%
カンファレンス関係者	293人	5%
一般・学生	470人	9%
団体／その他	341人	6%
合計	5,362人	

※比率は端数切捨て



来場者総数は前回(近畿本部フォーラム2018)の2倍以上の5,362人となり、大盛況であった。

前年度と同じく、来場者は建設業関係の企業様が多い傾向にある。

1日目2日目ともに来場者属性はほぼ同じ結果となり、カンファレンスゾーンでの開催内容などに左右されることなくご来場いただいていると推測され、展示会が目的でご来場いただいている方も多いと考えられる。

また、出展社様からは「もっと学生に来場してもらいたい」という意見が複数上がったので、理系の大学生や高専生、工業高校生などを中心に学生の集客を試みたい。

開会式

5月30日午前10時より、カンファレンスゾーンにて開会式が執り行われた。

10:00 開会宣言

実行委員長
一般社団法人 国土政策研究会
理事 兼 関西支部長
霜上 民生 氏



来賓挨拶

国土交通省 大臣官房技術参事官
岡積 敏雄 氏



国土交通省 近畿地方整備局長
黒川 純一良 氏



10:20 テープカット



「近畿地方整備局のインフラメンテナンスの取組発表」

10:30～10:40

国土交通省 近畿地方整備局 企画部長

森戸 義貴 氏

定期点検の見直しを行い、2巡目の定期点検からは「損傷や構造特性に応じた点検対象の絞り込み」「特徴的な損傷への対応の充実」「新技術の活用による点検方法の効率化」の3つの取り組みを進めていく。シーズ技術の進歩と点検を効率的且つ簡易に点検したいといったニーズのマッチングを進め、インフラの健全性をしっかり把握したうえで必要な対策を講じていくことが重要である。



YOSHITAKA MORITO

「インフラメンテナンス国民会議近畿本部の取組について」

10:40～10:50

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 情報ワーキング長
兼 関西大学 環境都市工学部

坂野 昌弘 教授

近畿本部では、「フォーラム」・「ピッチイベント」・「実証実験」の一連の活動を通し、施設管理者側の課題（ニーズ）と民間企業等が保有する技術（シーズ）のマッチングを図り、近畿地方を軸にインフラメンテナンスを社会に根付かせるべく、日々取り組んでいる。



MASAHIRO SAKANO

講演

カンファレンスゾーンにて、インフラメンテナンスの専門家たちによる講演が行われた。
ここでしか聞くことのできない貴重な講演内容であり、どの講演も大盛況であった。
勉強になった・面白かったと、来場者からの反響がとても大きかった。



1 特別講演

「これからの関西」

5/30(木) 11:00～11:30

一般社団法人 国土政策研究会 会長 元(国土交通省 近畿地方整備局長/参議院議員/自民党参議院議員幹事長)

脇 雅史 氏

私たちの子供や孫世代が生きる未来に、この関西がどうなっているかということを考えると、みんなで使うインフラの課題を自分たちの課題として考えなければならない。公共投資は、未来への投資である。



MASASHI WAKI

2 基調講演

「関西の今後のビッグイベント・プロジェクト」

5/31(金) 10:00～11:00

公益社団法人 関西経済連合会 交通インフラ・まちづくり担当部長

西村 和芳 氏

G20を始めとして、2025年まで国際的なイベントが関西にて連続して予定されている。それに伴い、夢洲のまちづくりや新大阪駅の再開発、新幹線や高速道路、関西3空港などの交通インフラの整備・活用も進んでいく。



KAZUYOSHI NISHIMURA

「インフラメンテナンス 2nd ステージ ー重要度を増す“診断”の信頼性ー」

5/31(金) 11:30～12:30

国立研究開発法人 土木研究所 理事長

西川 和廣 氏

インフラの維持管理を効率的・効果的に進めていくメンテナンスサイクル(5年に1度の定期点検)は、昨年1stステージを終了した。5年ごとの点検の定着、資格制度の充実など、大きな成果もあったがその一方で課題もある。令和元年からは2ndステージが始まるが、「診断」の信頼性の向上が課題となる。



KAZUHIRO NISHIKAWA

「国土強靱化に関する最近の動き」

5/31(金) 13:30～14:30

内閣官房 国土強靱化推進室 次長

山田 邦博 氏

国土強靱化とは自然災害等の被害の軽減を事前に図るためのリスクマネジメントである。平成30年度に国土強靱化基本計画の見直しを行い、またその中で「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を立て、特に緊急に実施すべきハード・ソフト対策について2018年度から3年間で集中的に実施している。



KUNIHICO YAMADA

「インフラメンテナンスに関する国土交通省の取組」

5/31(金) 15:30～16:30

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 事業総括調整官

藤田 士郎 氏

インフラメンテナンスの推進のために、国土交通省ではさまざまな支援や取組を行っており、今後は自治体による新技術導入の支援や、民間委託の推進、外部人材による支援について更なる検討を行い、持続的・効率的なメンテナンスを実現させていきたい。



SHIRO FUJITA

近畿管内道路メンテナンス合同会議

5/30(木) 13:00～15:30

近畿地方整備局管内7府県の道路管理者が結集し、各地で実施されている「道路メンテナンス会議」※の活動内容や点検・修繕等の取組事例等について、情報共有が行われる全国初の合同会議が実施された。

基調講演、各府県道路メンテナンス会議活動報告、定期点検・修繕等の事例紹介などが行われた。

※あらゆる道路施設の維持・管理を効率的且つ効果的に遂行するために各道路管理者が連携し、情報の共有や発信を行うことを目的として、平成26年度に設置され、各都道府県ごとに開催されている。



実証実験報告会

5/30(木) 15:30～16:00

第5回・第6回実証実験の報告会が行われた。

■第5回実証実験 概要

平成30年12月7日に
京都府相楽郡南山城村北大河原北垣内付近(主要地方道 上野南山城線)にて
以下の実証実験を実施した。

求 め る 技 術:道路付属物(標識柱等の鋼製支柱)の土中部の点検を支援する技術
実証実験実施者:岡山大学・積水化学工業株式会社
実 証 実 験:磁気センサを用いた鉄鋼構造物の非破壊検査(腐食減肉検査)

■第6回実証実験 概要

平成31年2月26日に
国道176号 坂浦トンネル・与謝トンネル・宮津トンネル
国道178号 栗田トンネルにて
以下の実証実験を実施した。

求 め る 技 術:トンネル等の点検に際し、継続的に整合が取れた点検を可能とする技術
実証実験実施者:西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
実 証 実 験:可視画像撮影及び3次元形状計測システムを搭載した車両によるトンネル履行面調査技術



出展社一覧



【屋内】

- メ-1 大林道路株式会社
- メ-2 前田道路株式会社
- メ-3 大成ロテック株式会社
- メ-4 株式会社 佐藤渡辺
- メ-5 パルテム技術協会 関西支部
- メ-6 一般社団法人PAジョイント協会
- メ-7 株式会社CORE技術研究所
- メ-8 川田テクノロジーズ株式会社
- 川田建設株式会社
- メ-9 日本ファブテック株式会社
- メ-10 オリエンタル白石株式会社
- メ-11 株式会社IHIインフラシステム
- 株式会社IHIインフラ建設
- メ-12 株式会社安藤・間
- メ-13 株式会社ニコン・トリンプル
- メ-14 ダイプラ株式会社
- メ-15 宮地エンジニアリング株式会社
- メ-16 中央復建コンサルタンツ株式会社
- メ-17 大日本塗料株式会社
- メ-18 株式会社杉孝
- メ-19 日本躯体処理株式会社
- メ-20 ヤマダインフラテクノス株式会社
- 循環式エコクリーンプラスト研究会
- メ-21 飛島建設株式会社
- メ-22 瀧上工業株式会社
- メ-23 越前屋試験工業株式会社
- エム・ケー開発株式会社
- メ-24 アス・プランテック株式会社
- メ-25 株式会社NIPPO
- メ-26 株式会社エスイー
- メ-27 株式会社クリハラント

【屋外】

- メ-1 一般財団法人阪神高速道路技術センター
- 日之出水道機器株式会社
- 成和リニューアルワークス株式会社
- 佐藤鉄工株式会社
- メ-2 ニチレキ株式会社
- メ-3 株式会社ケー・エフ・シー
- メ-4 サンスイ・ナビコ株式会社
- 国土防災技術株式会社
- メ-5 株式会社クリハラント
- メ-6 株式会社アクティオ

【屋内】

- 防-1 日本基礎技術株式会社
- 防-2 株式会社アドビック
- 防-3 株式会社ハタヤリミテッド

【屋内】

- 防-1 富士フィルム株式会社
- 防-2 株式会社富士交通・道路データサービス

【屋内】

- 先-1 株式会社パスコ
- 先-2 福井コンピュータ株式会社

【屋内】

- 環-1 今井産業株式会社
- 環-2 一般財団法人関西環境管理技術センター

【屋内】

- 自-1 株式会社特殊高所技術



【屋内】

- 保-1 阪神高速技術株式会社
- 保-2 株式会社日本インシーク
- 保-3 KEYTEC株式会社
- 保-4 長野計器株式会社
- 保-5 倉敷紡績株式会社
- 保-6 ジビル調査設計株式会社
- 保-7 大日本コンサルタント株式会社
- 保-8 内外構造株式会社
- 保-9 オリパス株式会社
- 保-10 株式会社アーステック東洋
- iシステムリサーチ株式会社
- 保-11 JIPテクノサイエンス株式会社
- 保-12 国際航業株式会社
- 保-13 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
- 保-14 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
- 保-15 エム・エム ブリッジ株式会社

【屋外】

- 保-1 河西運輸株式会社
- 保-2 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
- 保-3 倉敷紡績株式会社
- 保-4 有限会社神輝興産

【屋内】

- 園-1 株式会社近畿地域づくりセンター
- 園-2 一般社団法人近畿建設協会
- 園-3 国立研究開発法人 土木研究所
- 園-4 インフラメンテナンス国民会議 近畿本部
- 国土交通省 近畿地方整備局
- 一般社団法人国土政策研究会

【屋外】

- 園-1 国土交通省 近畿地方整備局

【屋内】

- 学-1 舞鶴工業高等専門学校
- 社会基盤メンテナンス教育センター
- 長岡工業高等専門学校
- 香川高等専門学校

インフラに関連した様々な最先端技術が集結

- メ メンテナンス / 補修・補強 / 更新
- 保 保守・監視・点検
- 防 防災・減災対策
- I IoT、ビッグデータ、AI活用技術・システム
- 環 環境保全対策
- 園 団体
- 先 先端技術・デバイス / ソーシャルデバイス
- 自 自動化 / リモートコントロール
- 学 学校
- 出展社プレゼンあり：2日間で全6ステージを開催。

出展社プレゼン

■ 1日目 5月30日(木)

ステージ	11:40	屋内 固-2 一般社団法人近畿建設協会	国とは異なる様々な問題を抱える市町村内のインハウスエンジニアの育成を目的とした市町村が管理する中小規模橋梁の維持管理支援の紹介。
	11:48	屋外 保-1 一般財団法人阪神高速道路技術センター 日之出水道機器株式会社 成和リニューアルワークス株式会社 佐藤鉄工株式会社	従来のRC床版、鋼床版に比べ軽量化・長寿命化され、急速施工も可能な球状黒鉛鑄鉄製の「高性能鑄鉄床版」の紹介。
	11:56	屋内 保-12 株式会社安藤・間	独自の画像解析技術を用い、コンクリート構造物のひび割れ調査を簡易に行うことができる技術の紹介。
	12:04	屋内 保-23 越前屋試験工業株式会社 エム・ケー開発株式会社	超音波や電磁波、レーザーなどの非破壊技術を用いた道路・橋梁・河川・港湾等のインフラの劣化調査・診断を行う非破壊試験装置の紹介。
	12:12	屋内 保-20 ヤマダインフラテクノス株式会社 循環式エコクリーンプラスト研究会	従来工法に比べ産業廃棄物の発生を約40分の1まで削減した「循環式エコクリーンプラスト工法」と、そのシステムを有効利用して鋼橋の疲労強度を向上できる「エコクリーンハイブリッド工法」の紹介。
	12:20	屋内 保-5 倉敷紡績株式会社	測定装置部分を小型化することで一般車両にも搭載可能なひび割れ、わだち掘れ、ポットホール等の路面性状を測定する装置「PG-4」の紹介。
	12:28	屋内 保-9 オリンパス株式会社	人が入り込めない場所の目視検査に活用可能な工業用内視鏡、コンクリートの塩害調査に用いることができる蛍光X線分析計、超音波機器等の「非破壊検査機器」の紹介。
	12:36	屋内 保-2 株式会社富士通交通・道路データサービス	スマートフォンを活用し、道路の舗装点検を低コストで簡単に行える「道路パトロール支援サービス」の紹介。
ブリス	12:44	屋内 保-3 KEYTEC株式会社	生コンクリートの管理を容易にする生コン単位水量計・ワイヤレスコンクリートセンサー、コンクリート構造物の維持・管理を利便化する鉄筋腐食探知器iCOR、SIR-EZシリーズ、ユーティリティスキャンスマート等、コンクリートの長寿命化を可能にする最新技術の紹介。
	16:10	屋内 保-8 内外構造株式会社	道路構造物の調査点検を効率的且つ効果的に行うための手法を実写VR動画・デモ用カメラ機材を用いて紹介。
ブリス	16:20	屋内 固-1 株式会社特殊高所技術	様々な状況に対応可能で、短期間・低コスト且つ精度も兼ね備えた社会実装可能な点検支援技術を紹介。

■ 2日目 5月31日(金)

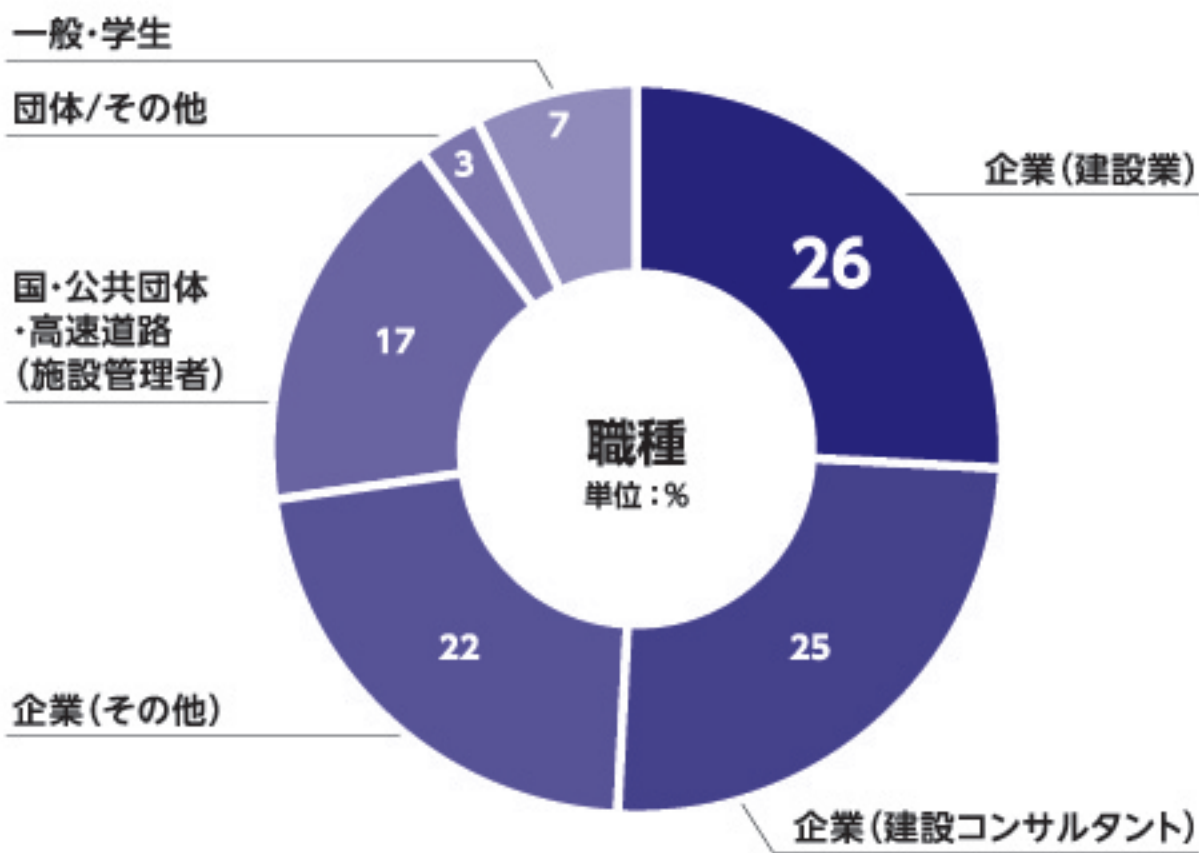
ブリス	9:40	屋内 保-8 川田テクノロジーズ株式会社 川田テクノシステム株式会社	床版や桁、遠くからでは確認できない部分をすばやく広範囲にわたって撮影可能な「橋梁点検用ドローン」と、河川や道路の管理・維持点検業務を効率化できる「道路河川点検システム」の紹介。
	11:10	屋外 保-3 倉敷紡績株式会社	測定装置部分を小型化することで一般車両にも搭載可能なひび割れ、わだち掘れ、ポットホール等の路面性状を測定する装置「PG-4」の紹介。
ブリス	11:20	屋外 保-3 株式会社ケー・エフ・シー	コンクリート製の境界ブロックを試験体として、金属系のあと施工アンカーの削孔から打設までの実演。
	12:40	屋内 保-9 日本ファブテック株式会社	鋼構造物を片面から補修・補強する「片面当て板補強」技術、地盤部の残存板厚を非接触で検査可能な地盤腐食検査システム「パウンダリーチェッカー」、直接目視点検できない鋼材内部のコンクリート状態を把握する損傷検知システム「Ez-Swave」の紹介。
ブリス	12:50	屋内 保-2 前田道路株式会社	ポットホールの補修材料、段差修正材、ひび割れ注入材などの特殊な技術がなくても簡単に補修可能な舗装材料の紹介。
	13:00	屋内 保-13 株式会社ニコン・トリンプル	40mの距離から0.2mm幅のひび割れが検出可能な画像計測ソリューション「Nivo-i」を使用したひび割れ自動計測システムの紹介。
	13:10	屋内 保-25 株式会社NIPPO	コンクリート床版に生じたひびに対し深く浸透・接着し、高い防水効果と補強効果が期待でき、施工・養生時間の短縮化も可能な「ハードフレッシュ工法」を模型を用いて紹介。
ステージ	14:50	屋外 保-2 ニチレキ株式会社	塗装の長寿命化を図るために目的とした路面性状調査を行う車両「LY Jr.」、舗装の構造診断を行う「FWD」、ひび割れの発生を防ぐ舗装用改質アスファルト「ノンクラックファルト」と橋梁のコンクリート床版防水工法「マルチフレッシュ工法」の紹介。
	14:58	屋内 保-1 富士フイルム株式会社	AIを活用し、画像からひび割れを検出、自動でデータ出力することにより、橋梁やトンネル等のコンクリート構造物の点検業務を効率的に行うことが可能な社会インフラ画像診断支援システム「ひびみつけ」の紹介。
	15:06	屋内 固-3 国立研究開発法人 土木研究所	鋼構造物の長寿命化を可能にし、新設／既設（補修）を問わず適用可能なチタン箔による鋼構造物塗膜の補強工法の紹介。
	15:14	屋内 保-11 JIPテクノサイエンス株式会社	高精度なIRI計算やビッグデータの可視化・準リアルタイム化が可能で、従来の専用車輛利用と比較し最大1/20のコスト削減が可能なスマートフォンを活用した高度な路面調査システム「DRIMS」の紹介。



1 お客様の職種を教えてください

回答	回答数	比率
企業（建設業）	416	26%
企業（建設コンサルタント）	412	25%
企業（その他）	360	22%
国・公共団体・高速道路（施設管理者）	282	17%
団体/その他	56	3%
一般・学生	110	7%
有効回答数	1,636	

※比率は端数切捨て

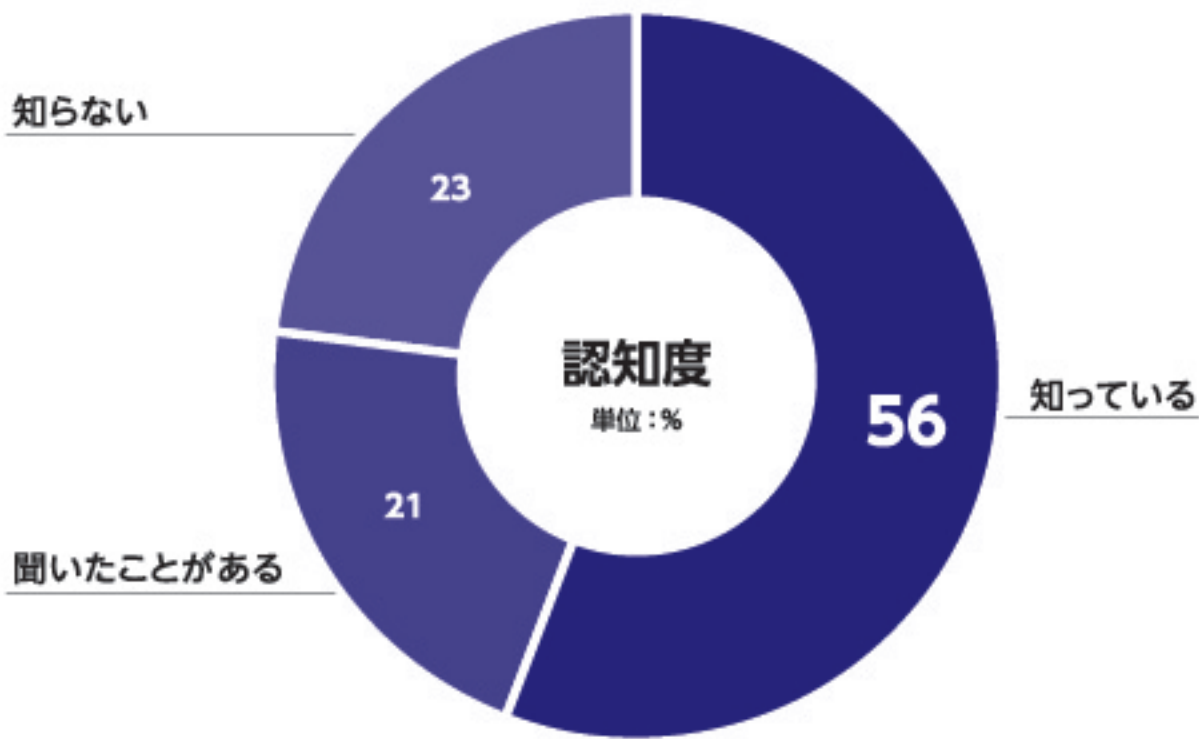


出展社関連企業様にご来場いただけることは想定内であったが、それ以外の同業企業様にも多くお越しいただいた。インフラメンテナンス産業
界隈において、当イベントの認知度が高まっていることがうかがえる。
部材・施工用品製造やエネルギー業界、リース業者など出展社様の直接の顧客になりうる企業様にも大勢ご来場いただき、具体名は差し控える
が、関西を中心にさまざまな地域の施設管理者にもお越しいただいた。情報系・システム開発に携わる方にも複数ご来場いただいたが、今後
ネットワークを活用したメンテナンス技術が増加すると推測されるので、今後はIT関連企業への集客にもより力を入れていきたい。
また、ご来場いただいた学生の内訳で最も多かったのは、建設・土木を専攻する専門学生であった。

2 インフラメンテナンス国民会議はご存知ですか

	回答数	比率
知っている	910	56%
聞いたことがある	348	21%
知らない	380	23%
有効回答数	1,638	

※比率は端数切捨て

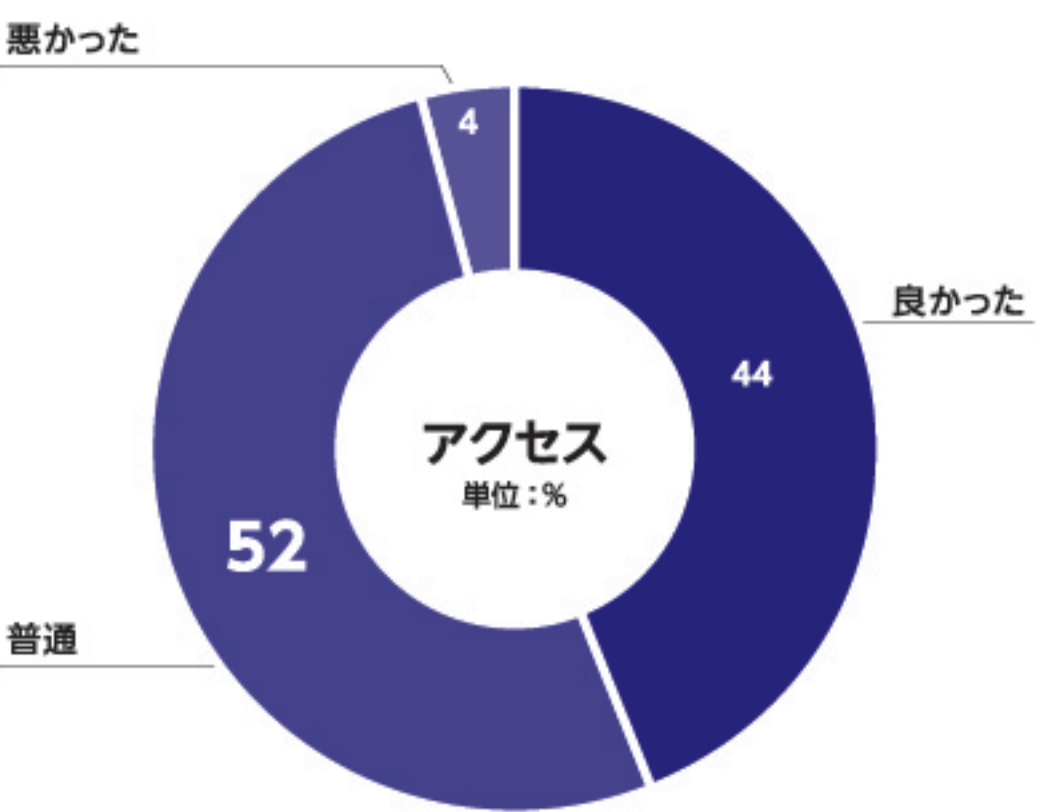


アンケート回答者の77%が当イベントを認知して来場してくださっており、知らないと回答された方はアンケート回答者の23%という結果になっ
た。前回(近畿本部フォーラム2018)の同質問に対し「知っている」「聞いたことがある」という回答が72%、「知らない」という回答が28%であつた
ことから、少しずつではあるが、認知度が高まっていることがうかがえる。また、前回の参加者で今年も参加して下さった方も多く見られ、当イベ
ントに対し好意的な印象を持たれているのではないかと推測される。

3 会場へのアクセスはいかがでしたか

	回答数	比率
良かった	722	44%
普通	846	52%
悪かった	72	4%
合計	1,640	

※比率は端数切捨て

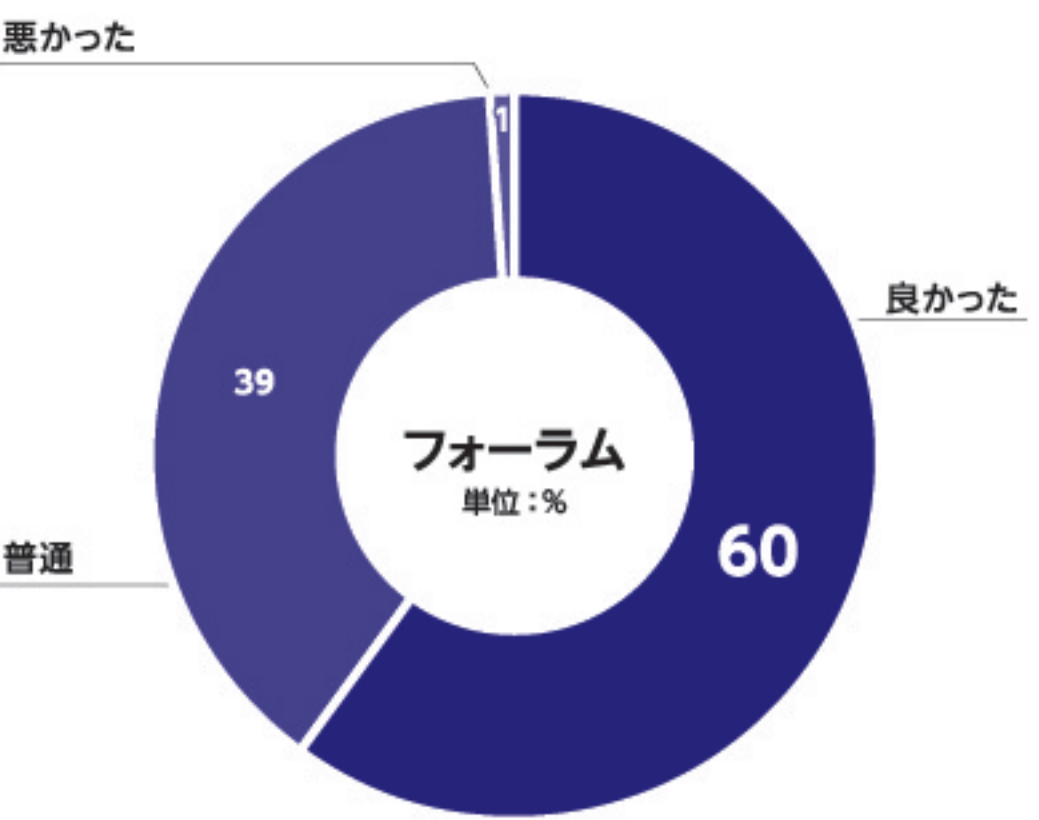


会場へのアクセスに肯定的、あるいは許容できるという回答が数値上は8割近くを占めるが、「乗り換えに時間を要した」、「インテックス大阪での開
催を希望」、「梅田や本町周辺など、大阪市内で開催してほしい」という意見も複数いただき、事務局はそれらの意見を真摯に受け止めなければなら
ない。金銭面や会場のスケジュール等の都合上、現段階では実現可能かは明言できないが、次回以降の開催にあたり可能な限り考慮したい。

4 インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラムはいかがでしたか

	回答数	比率
良かった	972	60%
普通	630	39%
悪かった	10	1%
合計	1,612	

※比率は端数切捨て

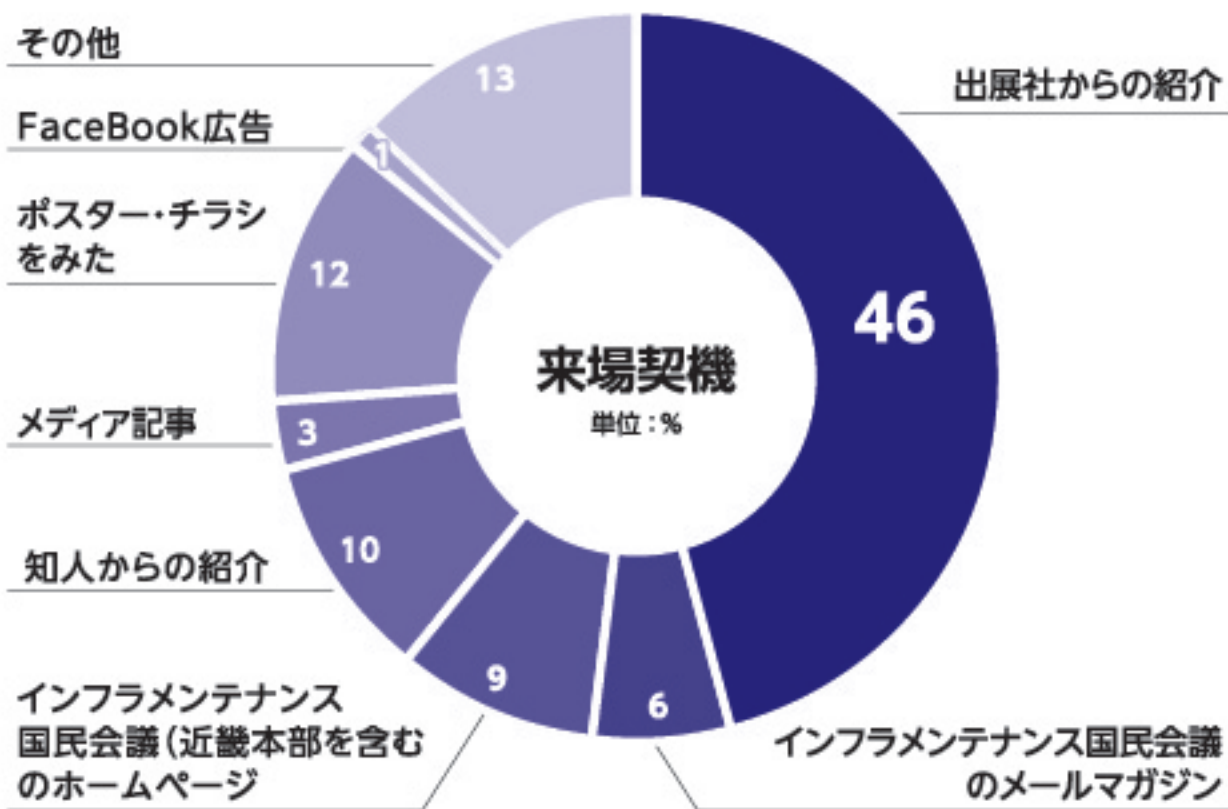


当質問に対し、「良かった」との回答が6割を超え、その理由として「さまざまな技術の体験ができる」点を挙げられている方が多かった。「普通」と回
答された方々も不満点はあるものの、おおむね満足していただけただようである。皆様からいただいたご意見をきちんと受け止め、次回以降の運営
に活かしたい。

5 どちらでイベントを知りましたか

回答	回答数	比率
出展社からの紹介	750	46%
インフラメンテナンス国民会議のメールマガジン	102	6%
インフラメンテナンス国民会議 (近畿本部を含む)のホームページ	146	9%
知人からの紹介	158	10%
メディア記事 (インターネット記事を含む)	50	3%
ポスター・チラシをみた	194	12%
FaceBook広告	4	1%
その他	214	13%
有効回答数 1,618人		

※比率は端数切捨て



出展社様や知人からの紹介がきっかけで来場される方が56%と、前回に引き続き日頃から仕事上で繋がりがある方々からはご来場いただけていることがうかがえる。職場内(建設コンサルタント関係)の会で当イベントが話題になったり、上司や同僚から話を聞いたのがきっかけでご来場されたという回答も見受けられ、インフラメンテナンス産業界において、当イベントの認知度が高まってきたように思われる。その一方で課題として挙げられるのは、「インフラメンテナンスにあまり関心の無い層」への呼びかけである。「ポスター・チラシをみた」ことが来場契機となった方の割合は12%と、高いとは言えない数値である。直接的にインフラメンテナンスに携わる業界の方「だけ」にお越しいただくのではなく、より幅広い層にご来場いただくために、効果的に告知を行い認知度を高め、潜在顧客を取り込む工夫を行うことが、次回以降の課題となる。また前年の課題であった「インターネットを見て来場しようと思われた来場者の増加」については、13%(来場契機に「インフラメンテナンス国民会議のホームページ」、「メディア記事」、「FaceBook広告」を選択した回答者の割合)と増加傾向にはあるものの、FaceBook、Twitter等のSNSでの盛り上がりは見られず、まだまだ改善の余地があるように思われる。

6 良かったコンテンツ、出展社を教えてください(自由記述欄)

企業(建設業)	■「メンテナンス / 補修・補強 / 更新」のブース、全て良かった。 企業が力を入れている商品がわかったこと。 ■最新の点検車両の展示、VRの技術を使って疑似体験できるのが良かった。 VR体験・ゴンドラ乗車など実際に触れて体験できるものに好評のコメントをたくさんいただいた。 また具体的な出展社名が多く記載されておりマッチングも着実に進んでいると推測される。
企業(建設コンサルタント)	■出展社プレゼンが良かった。 ■最新の点検車両の展示が興味深かった。 ■インフラメンテナンスへの取組方針など講演を聞けて良かった。 様々な分野に興味を持てただけだと推測される。
企業(その他)	■新商品、技術の展示 ■トンネル補修・補強関連 こちらも具体的な出展社名が多く記載されていましたが、屋外ブースとVR導入の出展社を挙げる回答が多く、体験型の展示が好評であると推測される。

国・公共団体・高速道路 (施設管理者)	■〇〇先生の講演がわかりやすかった ■道路補修材料 ■橋梁メンテナンス こちらも具体的な出展社名が多く記載されていましたが、多岐に渡っており様々な分野に興味を持てただけだと推測される。
団体/その他	■近畿管内道路メンテナンス合同会議全般 ■国交省・大学教授他の講演 カンファレンスゾーンで行われた講演が興味深かった、面白かったという声も複数上がった。
一般・学生	■各企業の説明に加え、VR技術などを体験することで実際の仕事内容が理解できました。 ■橋の点検をする車に乗れたこと(子どもが喜ぶので)。 体験型のブースを多くの方が楽しまれた様子である。

7 良かったところ、改善してほしいこと等ご意見お聞かせください(自由記述欄)

【良かったところ】

- 機械の乗車ができること。細かな質問にも対応頂いた。
- みんなが熱心に説明してくれたこと。
- 新しい情報があるので、有益。
- 会議と同時開催のため来場しやすかった。
- インフラメンテナンスに多くの企業が参画・努力していること、私を含む一般の人々は全く知らないが、安全が確保されていることを初めて知った。
- サービスが良かった。雰囲気良かった。
- 各企業の説明に加え、VR技術などを体験することで実際の仕事内容が理解できました。
- 多くの建設コンサルタント様や建設業者の方と交流が出来た。
- 来年も楽しみにしてます。

【改善してほしいところ】

- 講演の声が聞こえにくい、講演会場が狭いので席を増やしてほしい。講演内容のレジュメが欲しい。
- 次回は出展社数を増やしてほしい。
- 屋外場所は舗装した方が良い。
- 下水道が専門なので、その分野がもう少し入っていればと思った。
- コンクリートも出展して欲しい。
- 暑さ対策をしてほしい。
- 休憩スペースが休憩しにくい。
- 駐車場、会場入り口がわかりにくかった。
- 合同会議の資料が無く、もらえなかった。予備を増やしてほしい。
- 場内、ブース及び通路が狭すぎるように思う。

1 会場はいかがでしたか

	回答数	比率
良かった	12	21%
普通	34	61%
悪かった	10	18%
有効回答数 56		

※比率は端数切捨て

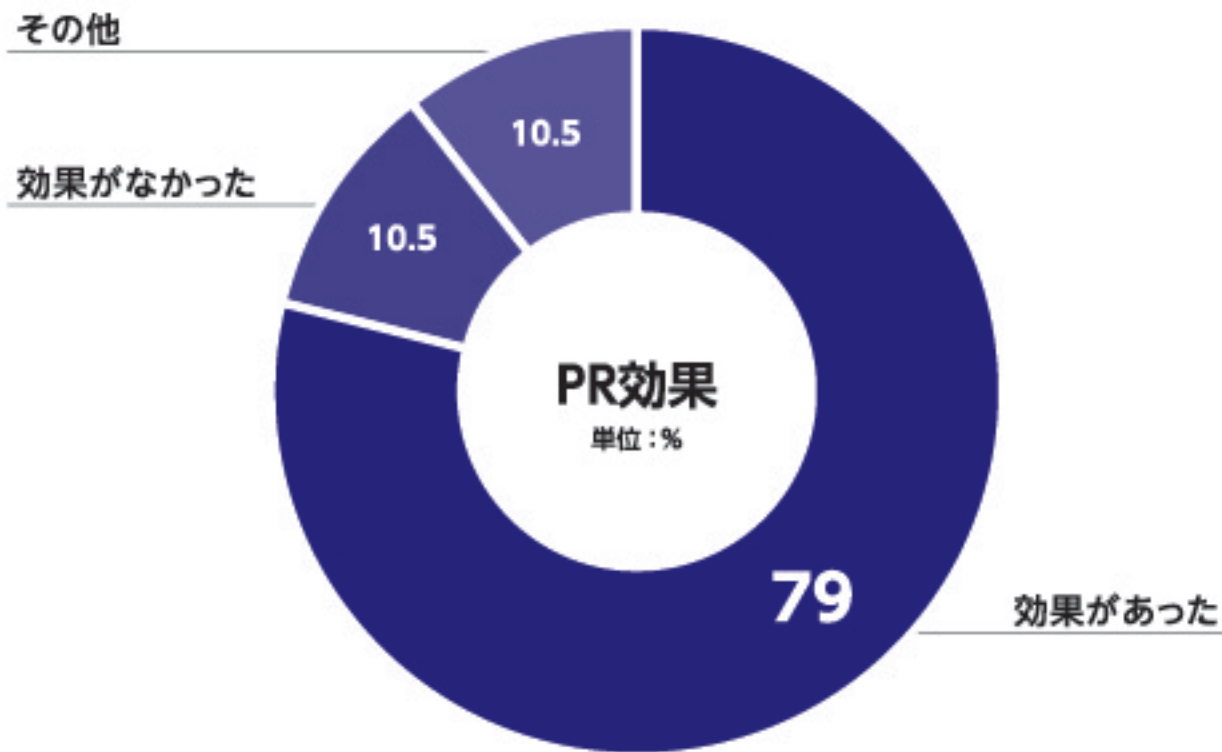


前回の開催よりは改善されたものの、「暑い」というご意見を複数いただいた。次回以降は空調管理の徹底を行いたい。また「資材の搬入・搬出時、車両の乗り入れができず、不便だった」というご意見もあり、搬入・搬出時の利便性にも気を配る必要がある。

2 貴社に技術PRの効果があった、あるいは、効果がなかったと感じられましたか

	回答数	比率
効果があった	45	79%
効果がなかった	6	10.5%
その他（未記入等）	6	10.5%
有効回答数 57		

※比率は端数切捨て



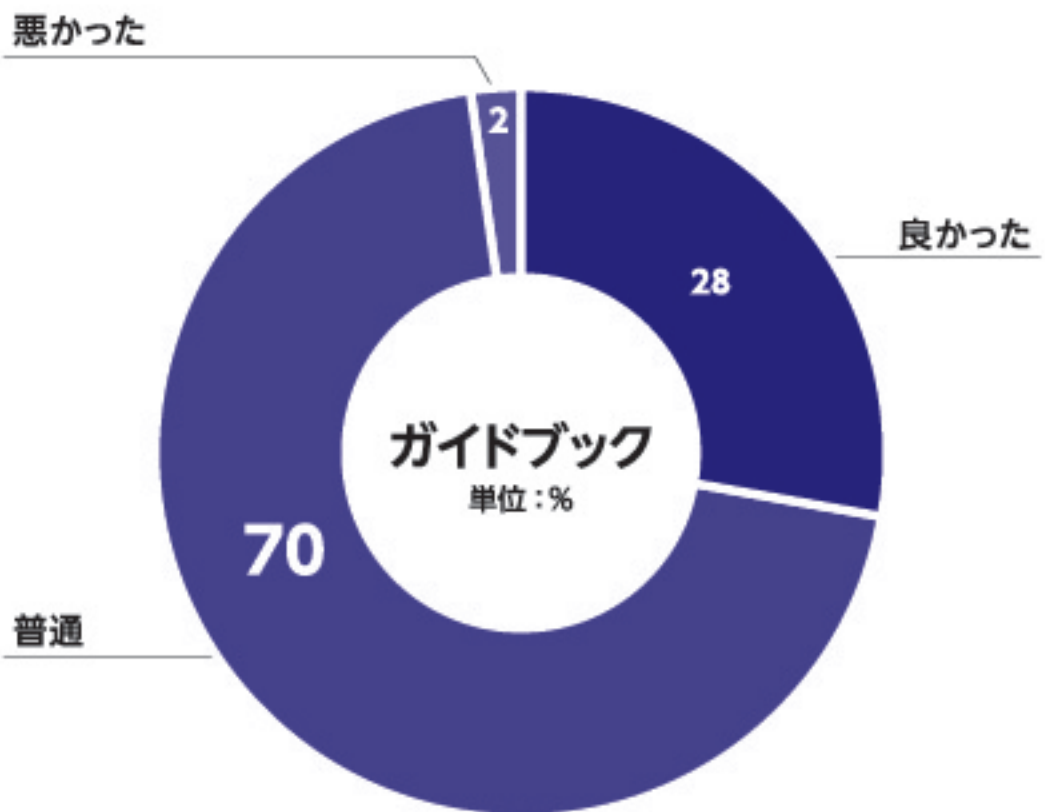
前回（近畿本部フォーラム2018）の同質問に対し「技術PR効果があった」と肯定的に回答したのが回答者のわずか3割だったのに対し、今回は8割近くの出展社様が「技術PR効果があった」と回答している。前回のアンケート結果を踏まえ改善点を洗い出し、一つずつ解決策を模索していったのが、この結果に繋がったと考えられる。



3 リフレット・ガイドブックはいかがでしたか

	回答数	比率
良かった	16	28%
普通	39	70%
悪かった	1	2%
有効回答数 56		

※比率は端数切捨て



「見てすぐにわかる」「見やすい」といったご意見を複数いただいたが、その一方で「会社概要の欄が小さい」といったご意見もあり、可能な限り工夫していきたい。また「（出展社様への）ガイドブックの配布が遅い」というご意見もいただき、こちらも次回以降改善したい。

4 商談・休憩コーナーは活用できましたか（自由記述欄）

- 色んなつながりができ、すごくよかったです。
- 商談までは至りませんでしたが、ホッとする空間がよかった。
- 活用させていただきました。ドリンクのサービスがとても良いと思いました！
- 休憩コーナーの展示（補修施工例）が面白かったです。
- 活用できました。ただセミナーを真ん中で、周りをブース、その周りを商談コーナーがよかったのでは？
- 今回は利用しなかったが、有効だと思います。
- 無料ドリンクの種類を増やしてほしい。
- 椅子・テーブルが少なく、利用できなかった。

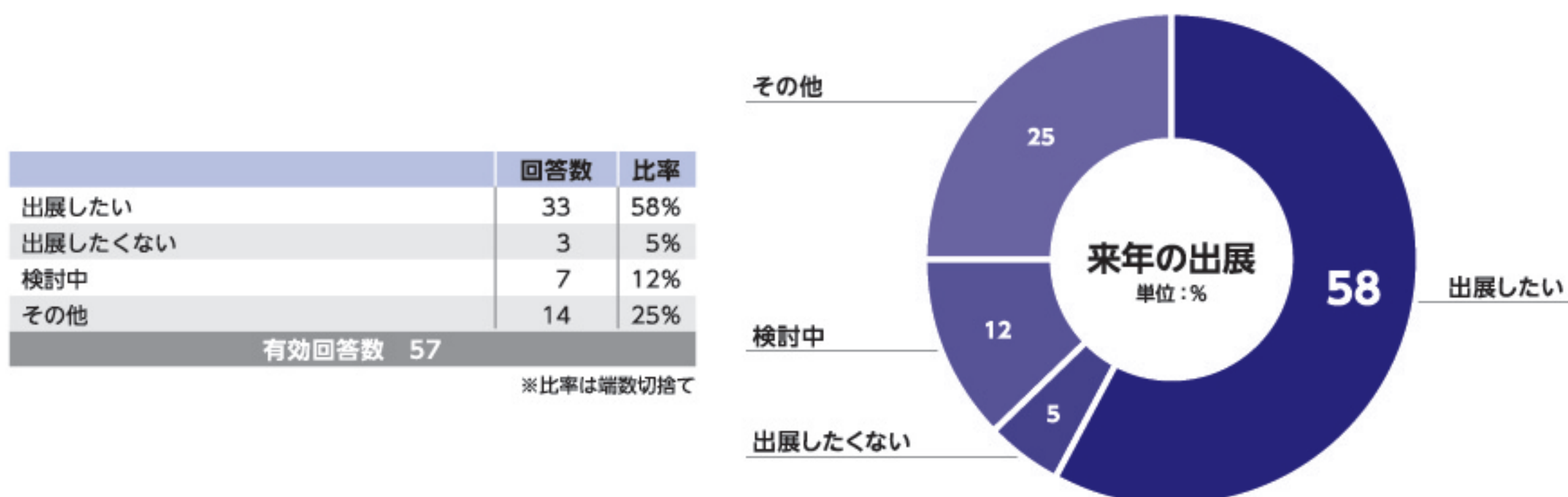
商談・休憩コーナーに関しては、改善の余地もあるが大変好評であったので次回以降も継続したい。

5 今回の展示会のご感想をお聞かせください（自由記述欄）

- 多方面の業種の方と意見交換でき有意義であった。
- 補修関係の会社が多くとても満足しました。次回展示する際は今回の経験を活かしていきたいと思います。
- スタッフの方の声かけ、対応が丁寧で積極的でよかったです。
- 自社の技術や製品をアピールできる良い場だったと思います。
- 道路メンテナンス会議との併用は非常にいい企画。ただし前後で（会議の）展示会場にうまく誘導されなかった。次回会場にほとんどの方が参加してもらえるよう工夫がほしい。
- 想定していたよりも、公共の来場者が少ないように感じました。
- 自治体の来場者数が少ない。
- 少し来場者が少ないと思います。もっと学生にPRできれば良いと思います。

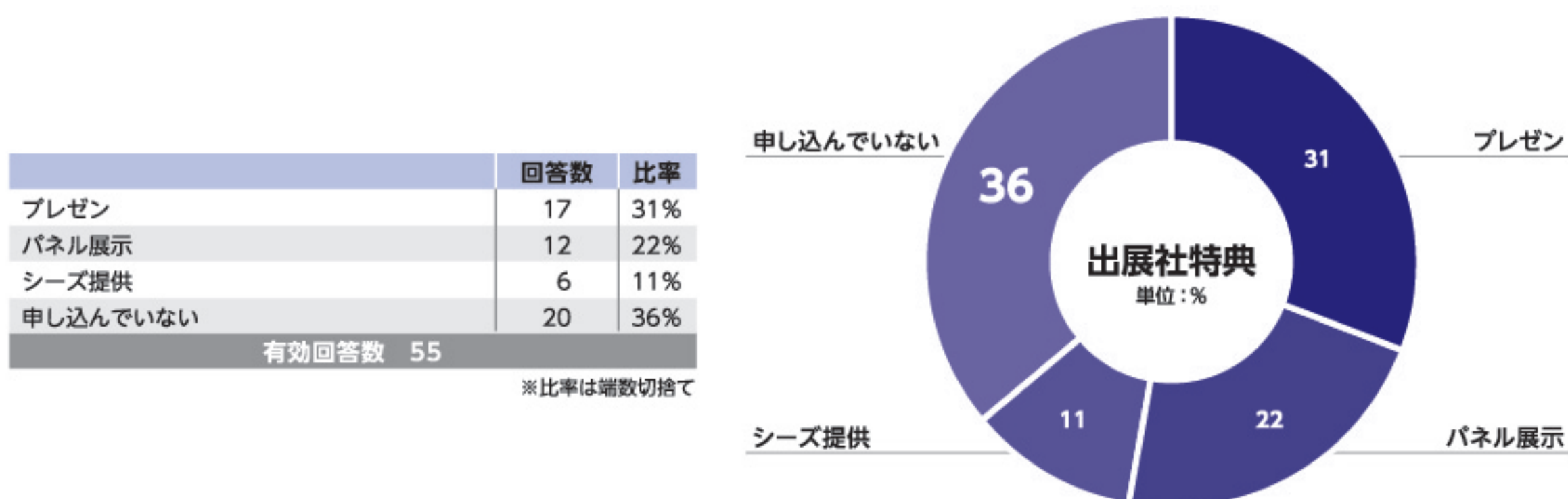
「保有している技術・製品のPR効果があった」、「他社のブースや講演が勉強になった」という肯定的なご意見をたくさんいただいたが、その一方で国や自治体、学生の来場者が少ないというご意見も複数いただき、次回以降の運営に活かしたい。

6 来年も出展したいと思いますか



この質問に肯定的な回答をされた出展社様からも、さまざまなご意見・ご要望をいただいております、それらを次回以降のイベントに反映させて、より出展社様に満足いただけるよう努めてまいります。

7 出展社特典で満足したものはありますか



出展社様のPRを推進するべく、今年は「施設管理者のニーズ公開」(全出展社様対象)、「ステージ・自社ブースでのプレゼンタイム」、「会場での訴求パネル展示」、「近畿道路メンテナンス会議合同会議での配布資料にてシーズ掲載」(以上3点はお申込み先着順)という4つの出展社特典を用意した。

どの特典も出展社様にとってプラスになるものであると確信しているが、出展社特典を申し込まれなかったり「出展社特典のメリットがよくわからないので辞退する」とおっしゃる出展社様も多数おられ、事務局の説明が不足していたように思われる。また、「出展社特典の説明がわかりにくい」というご意見も複数あり、次回以降改善したい。

8 来年に向けて主催者に求める事がありますか(自由記述欄)

- 準備の時間が短いので出展社の入場時間を早めてほしい。2日目の終了時間も早めてほしい。
- 空調が十分に効いていなかったのと、屋内の直射日光対策をお願いしたい。
- ガイドブックの会社概要の欄が小さい。
- 商談・休憩コーナーのテーブルと椅子が少なかったので使用できなかった。
- 通路が狭く、前のブースがプレゼンをしている間は人が通れなかったほど。
- 場内アナウンスが聞こえにくかった。
- 来場者が期待より少なかった。外部へのPRの強化をしてほしい。
- 学生の来場も促してほしい。学生の社会見学の企画など。
- スタッフにより案内が異なることがあったので、情報の周知をお願いしたい。
- 同様同類のイベントは重複しないように調整してほしい。
- パネル展示やブースプレゼンについて説明がわかりにくい部分があった。
- 会場のアクセスが悪い。
- 搬入・搬出(特に)時の出入りを分かりやすくしてほしい。
- メンテナンス合同会議出席の施設管理者の来場が少なかったので誘導する方法を再考してほしい。

来年度に向けての改善点

■さらなる暑さ対策

開催日を前回の8月から5月に早めることで暑さ対策を図ったが、前年度に引き続き、「暑い」という声が複数上がった。また、直射日光により体調を崩された方もおられた。次回以降、空調管理の徹底と直射日光対策の強化を行いたい。

■来場者数UPのための、告知・案内方法の再考

出展社様から「より多くの人にご来場いただきたい」とご意見を複数いただいた。インフラメンテナンス産業関係者だけではなく、「インフラメンテナンスにあまり関心の無い層」への呼びかけを強化していきたい。そのためには開拓余地があると思われるインターネットやSNSを活用した告知やWEBサイトの定期的な更新を行い、より幅広い層へのPRを行っていく必要がある。

■施設管理者の来場を促す方法の再考

施設管理者の方のご来場を促すために、近畿管内道路メンテナンス合同会議と同時開催にしたにもかかわらず、展示会にはお立ち寄りになれなかった施設管理者の方が想定以上に多かった。施設管理者様にとっても、魅力を感じていただける展示会であることは間違いないので、来場の契機を作ることが次回以降の私たちの課題となる。

制作物一覧

■ ガイドブック



■ A2ポスター



■ 公園内トラス



■ 駐車場からの
ルート案内看板



■ 駅からの
ルート案内看板



■ 受付裏MAP



■ 入口ゲート看板



■ ドリンクコーナー看板



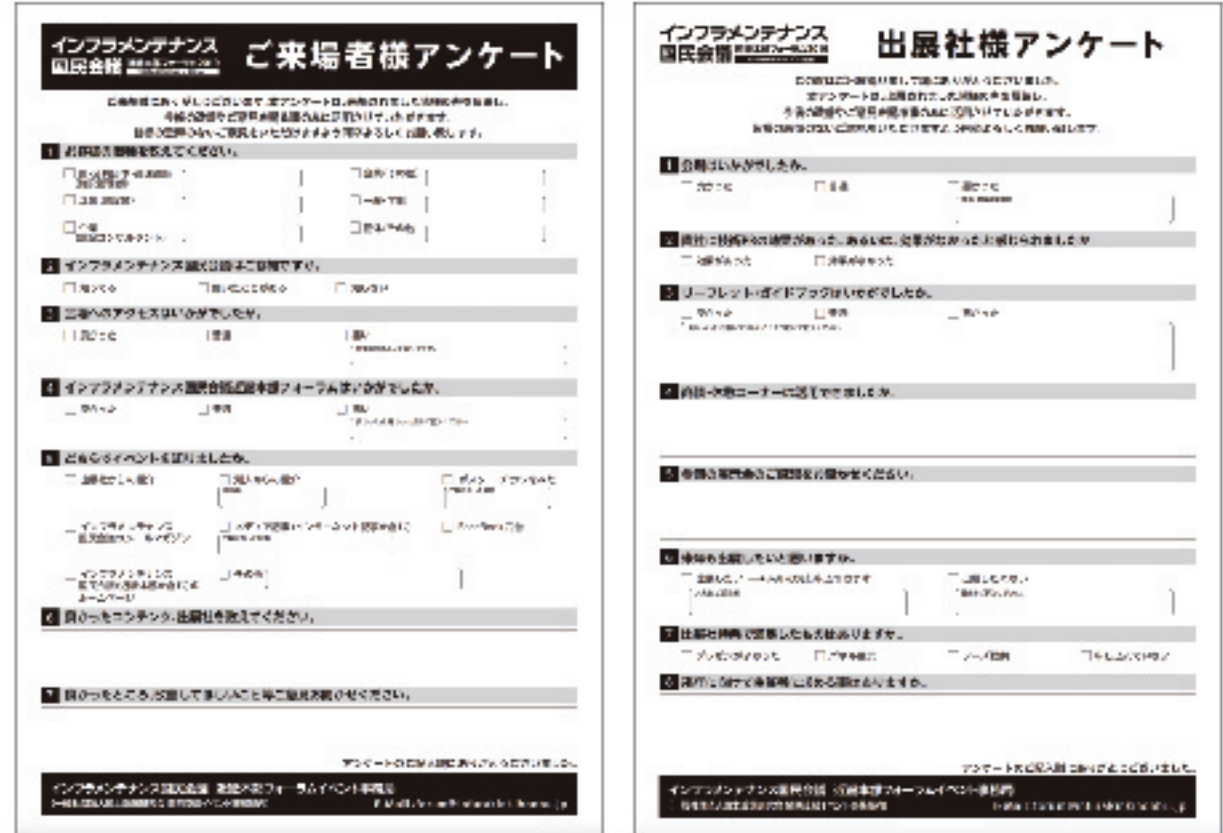
■ 各ブース看板



■ 出展社・来場者パス



■ アンケート



1 新聞

●建設通信新聞 13面(令和元年5月31日(金))



●建通新聞 1面(令和元年5月31日(金))



●日刊建設工業新聞 10面(令和元年5月31日(金))



2 Webサイト

●読売新聞 オンライン(令和元年5月23日(木))

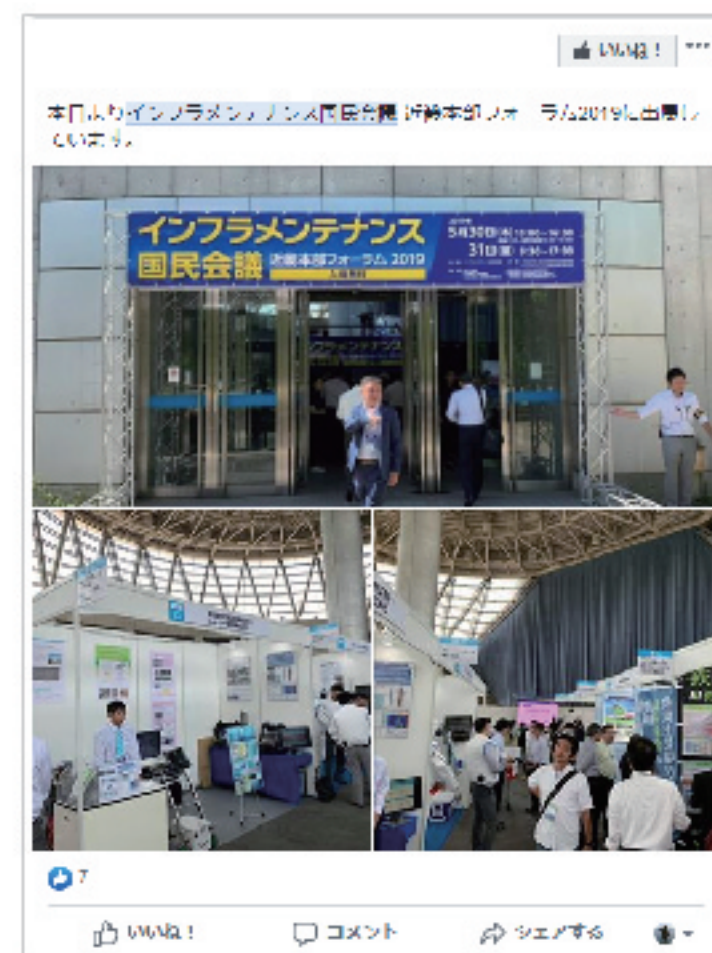
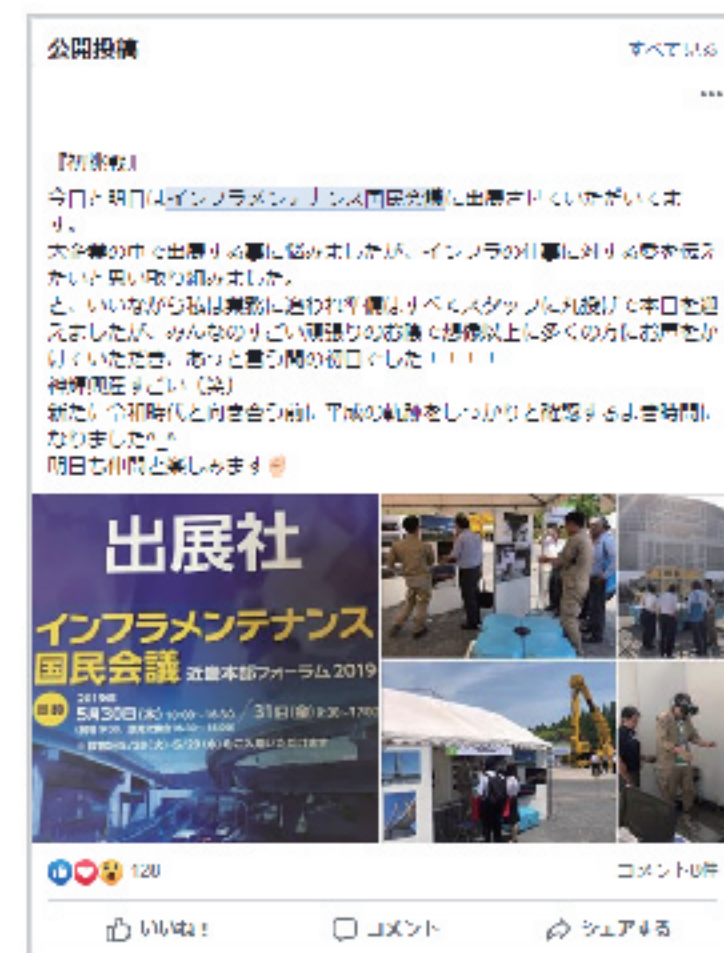


●日刊建設工業新聞 オンライン



5 SNS (出展社や来場者による)

●Facebook



6 Facebook (出展社募集用)



●Instagram



●Twitter



Go for 2020...

地域再生の“いま”を考える

一般社団法人 国土政策研究会

国土政策研究会について

一般社団法人 国土政策研究会(通称:国政研)は、「地域創生」を目的として、少子高齢化、産業構造の転換、地域間格差の拡大など日本が抱える諸問題について調査・研究を進め、地方自治体や他の関連団体と連携して政策実現を推進しております。また、自治体や国土政策研究会の会員企業及び個人会員のみならずからの相談を常時受け付け、必要な助言と協力を行うコンサルタント活動や、官公庁、民間企業からの事業委託を受け、国土政策研究会会員の持つノウハウを活用して報告書等を作成する受託事業も行っております。

真の地方再生を

地方創生が叫ばれて久しいが、なかなか目に見える形で、その姿を見ることは未だあまりないように感じられる。しかし多くの人が全国各地で懸命に努力を重ねられ、少しずつ実績が挙がりつつあるように思う。北朝鮮の問題を始め、国際的に不安定な状態が続き、国内的にも少子高齢化、デフレ経済、財政問題等の様々な課題があり、今後の我が国の行く末は、暗雲が立ち込めているという程ではないにしても、予断を許さない状況が続いている。こんな中で、戦後70年の歴史を振り返り、新たな日本国の展望を明確にすべきと感じている人も、また、数多くおられるものと思う。戦後の我々を支配してきた考え方、ある種の価値観としての個人主義、市場第一主義といったものに、そろそろお別れをして、「まず、それぞれの地域の未来を考えねばならない。」として、地方創生という言葉が持てはやされてきたものと思うが、このことは全くもって正しいことと思っている。人は一人で生まれるものではなく、家族の中に誕生する。また、家族は地域に、地域は更に周辺の地方の中に、最後は国家の中に存在するものであるから、国家としてより良くあるためには、まさに地域がより良くなければならないのである。自分だけのことではなく、一人一人が地域のことを主体的に考える。それこそが真の地方創生の第一歩ではなからうか。それぞれの地方の創生が本当にうまく進んでゆく為に、国土政策研究会としても、力を合わせて進んでゆかねばならない。皆様のご協力を心からお願い致します。



会長 脇 雅史

国土政策研究会の活動

1. 国土政策に関する調査の実態

国土交通省と連携して、地方創生啓発資料の作成や、市町村や官公庁、民間企業等からの国土政策調査の委託を行っております。

2. 国土政策に関する研究会、シンポジウム、講演会等の実施

再生エネルギーの研究・可能性調査、PPP-PFI等の活用、シー・ブレインの普及、水環境再生のあり方、地方創生などについての研究会、シンポジウム、講演会等を開催しております。

3. 定時・臨時総会及び通常理事会・臨時理事会の開催、機関誌等の発行

定時・臨時総会及び通常理事会・臨時理事会の開催、並びに機関誌・事務局だよりの発行等、本会の円滑な運営と事業推進を図っています。

【役員一覧】

顧問	鈴木 道雄	第五代会長/元・建設省事務次官
顧問	岩井 國臣	第六代会長/元・建設省河川局長、参議院議員、国土交通副大臣
会長	脇 雅史	元・建設省近畿地方整備局長、参議院議員、自民党参議院幹事長
副会長	高田 邦道	日本大学理工学部名誉教授/元・日本大学副理事長
専務理事	小浪 博英	元・建設省土木研究所研究調整官、東洋大学地域活性化研究所長
事務局長	吉村 満	国土政策研究会理事
理事	伊丹 淳一	元・大日本プラスチック株式会社代表取締役社長
理事	伊庭 良知	伊庭オフィス代表
理事	奥平 聖	一般社団法人日本デジタル道路地図協会理事長/元・北海道局長
理事	奥野 晴彦	一般社団法人関東地域づくり協会理事長/元・関東地方整備局長
理事	梶 太郎	大林道路株式会社常務執行役員/元・建設省建設大学校副校長
理事	片岡 信之	阪神高速技術株式会社関連事業部担当部長
理事	司波 寛	都市計画コンサルタント
理事	清水 喜代志	ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社顧問/ 元・大臣官房技術審議官(都市局担当)
理事	霜上 民生	一般社団法人近畿建設協会理事長/元・内閣府沖縄総合事務局次長
理事	菅原 信二	一般社団法人中国建設弘済会理事長/元・中国地方整備局企画部長
理事	谷口 博昭	一般財団法人国土技術研究センター理事長/元・国土交通事務次官
理事	福成 孝三	日本振興株式会社顧問/ 元・復建調査設計株式会社代表取締役会長、島根県土木部長
理事	藤本 順憲	福岡市議会議員
理事	室谷 正裕	京成電鉄株式会社常務取締役/元・運輸安全委員会事務局長
理事	山内 幸裕	情報技術株式会社監査役/ 元・阪神高速道路公団、阪神高速技術株式会社代表取締役
監事	森山 博文	森山博文税理士事務所

一般社団法人 国土政策研究会 関西支部

関西支部設立趣旨

関西圏の活性化を目的に、会員の持つノウハウ等を活用し、関西圏のインフラストラクチャー構築のあり方について、PPP-PFI等による官民連携による地域再生の推進等、公益の利益に資する調査・研究活動と提言を行います。また、本部の指導・支援体制のもと、関西圏における国土政策研究会の調査・研究の推進を目的に関西支部として新規会員の拡充を図ってまいります。

関西支部長 霜上 民生



関西支部活動内容

研究部会の設置および開催

国土政策に関する調査・研究を行い、関係行政機関への建議献策や世論の啓発を行うことを目的に研究部会を設置・開催しています。会員5社以上の要望がある場合には、新たに研究部会の設置が可能です。

● PPP-PFIを主とした民間活用資金の活用研究部会

関西エリアにおける民間資金活用の具体的調査研究や、他の地域と結ぶアクセス性が高く強靱な交通インフラ整備の調査・研究を行う。

● 再生可能エネルギーの活用推進研究部会

公共団体等の未利用地・未活用資産上での再生可能エネルギーの利活用に関する調査・研究を行う。

● 公共工事の資源有効活用研究部会

建設発生土の更なる有効利用を図るため、官民一体となって、建設発生土の更なる有効利用を図る調査・研究を行う。

● 公共インフラに係る新技術・新工法研究部会

効率化・省力化に繋がる新技術・新工法等の調査・研究や、道路付帯設備等を含む新しい公共インフラの調達の調査・研究及び会員相互の持つ「ノウハウ」や「技術」等のマッチング等を行う。

● 過疎地域の活性化に関する研究部会

高齢化の進む過疎集落への対応について、国土政策研究会の立場から過疎の実情を研究し、各過疎地域の需要に合わせた活性化に繋がる新たなビジネスモデルの検討・提案を行う。

● インフラのIoT技術導入研究部会

インフラにおけるIoT(モノのインターネット化)技術の導入・活用法等についての研究を行う。

セミナーの開催

各界の著名人を招いて講演を行います。講師を囲んだ意見交換会も開催しています。

「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム」の事務局運営

インフラメンテナンス国民会議は、インフラを良好な状態で持続的に活用するために産官学が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、様々な主体が参画し、理念の追求、課題の解決およびイノベーションの推進を図る産官学民のプラットフォームです。関西支部は「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム」の事務局を運営しております。

<http://infurakinkihonbu.jp/>



入会のご案内

入会をご希望の方は、当事務局まで電話あるいはメールにてご連絡をお願いいたします。

会員の特典

- 講演会・セミナーへのご案内
- 「国土と政策」の無料配布
- 情報資料の配布

年会費

法人会員:年間 10万円
自治体会員:年間 無料

お問い合わせ

一般社団法人 国土政策研究会 事務局

〒103-0001 東京都中央区小伝馬町17-17 日本橋シルバービル5F

TEL:03-6231-1382 【電話受付時間 9:30~17:00 ※土日祝は休み】

E-mail:info@kokuseiken.or.jp <http://www.kokuseiken.or.jp>

お問い合わせ

一般社団法人 国土政策研究会 関西支部事務局

〒550-0005 大阪市西区西本町1-4-1 オリックス本町ビル12F

TEL:06-6110-7168 【電話受付時間 10:00~17:00 ※土日祝は休み】

E-mail:kansaishibu@kokuseiken.or.jp <http://www.kokuseiken.or.jp>